



ナンヒェン社 (2011年10月執筆) 特別付録



1: 工場の住所がMartinsstein (=マルティンの岩) 10というように、その道には実際マルティンの岩と呼ばれる巨岩がありました。



2: そして…



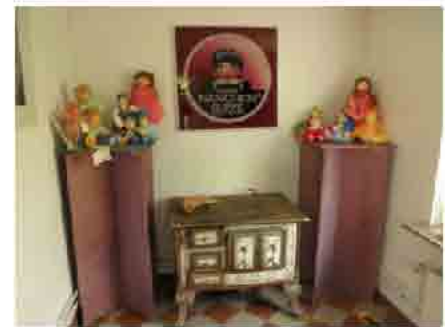
3: ハウスナンバー10番。
ナンヒェン社の工房です。



4: 工場の玄関。



5: ナナさんとペーターさん。



6: 工房玄関はショールームの雰囲気。
中央にある古いかまどはショップ《アルケ》時代、実際に使われていました。



7: クリスマスシーズン、このオープンでりんごを焼いてお客さんに振舞っていたそうです。店内に焼きりんごのいい香りが漂ってお店を暖かな雰囲気満たしていたことでしょう。



8: 代表的なナンヒェン人形が飾られています。



9: 写真はお孫さん。



10: 裁断室の入り口。



11: 裁断室には様々なテキスタイルが収納されています。



12: ボディやフェイス、お洋服用のテキスタイル。



13: お人形の髪の毛になります。



14: ピンボードには型紙がぎっしりとあります。



15: 縫製室1。



16: 綺麗に裁断されたパーツ達が、縫ってもらうのを待っています。



17: ミシン。



18: お洋服を縫製しています。



19: ひとつひとつ大切に。



20: 熟練の技です。



21: こちらはお人形のボディです。



22: 細かい作業が続きます。



23: 手間をかけ、長く遊べるように丈夫な縫い方をしています。



24: 縫製前のパーツと、縫製後に中綿を詰めたもの。



25: ピンボードには縫製時の注意事項などが一目でわかるよう工夫されています。(クマのズボン。尻尾の穴に注意が喚起されています。)



26:様々な種類の製品タグを縫い付けます。



27:縫製室2。ナナさんがお人形の顔を描く机もこの部屋にあります。



28:縫製済みの小物類が整頓されています。



29:なにやら手前のミシンに・・・



30:線や数字が書かれています。



31:細かい指示により、それぞれのお人形ができていきます。



32:上写真の反対側ではハトメ付けを行います。



33:色々なパーツの中にハトメもあります。



34:お洋服にハトメを付けています。



35:ガチャン。



36:手編みでお人形の髪の毛をつくります。



37:ナナさんの仕事机。人形にお顔を描く作業はこの机で。



38:工房の壁のあちこちに掛けられたピンボード。サンプルや縫製時の注意事項などが一目でわかるよう工夫されています。



39:ナナさんの卓上。お人形のお顔を描く道具。



40:ナナさんの机の横で、お顔を描いてもらうため、お人形達が待っています。



41: それでは、お人形のお顔を描いていきましょう。



42: 一番集中力を要する行程へ。



43: 繊細な筆でひとつひとつ手描きします。



44: 反対の目も。



45: ほら、お人形に命が吹き込まれましたね。



46: ナナさんもほっとされています。



47: ナナさんの作業機の横。お顔を描いてもらったお人形たちが仕上げを待っています。



48: ナナさんの向かい側では、お人形達が仕上げをしてもらっています。



49: ひとつひとつ手縫いです。



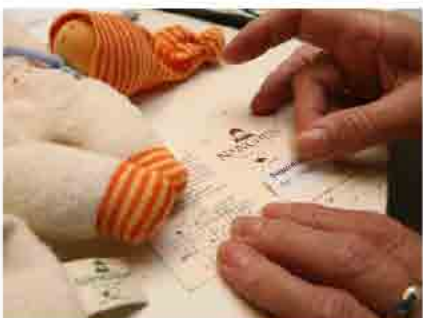
50: こちらはパッキングの部屋。



51: ここで商品タグが付けられ、ひとつひとつビニール袋に入れます。



52: これが商品タグ。ひとつひとつに品番や品名が付いています。



53: タグにシールを貼り・・・



54: タグを商品にパッチン止めて・・・



55: ビニール袋へ。



56:ご主人、ペーターさんのお仕事場。



57:商品ストックの棚。



58:デザインだけではなく、人形を送り出すのも、ペーターさんのお仕事です。



59:工房のバルコニーにて。マルティンの巨岩も臨めます



60:工房のお庭に赤い実がなっていました。



61:ここまで可愛がられてついに修理のため送られてきたお人形たち。



62:ある修理依頼の人形に添えられていた手紙。右はお母さんによる左の手紙の翻訳。



63:こちらが左側の子どもが書いた手紙。



64:絵本のモデルにもなったナンヒェン人形。



65:本文にあるヴェルクシュタット時代の二人の考案によるおもちゃ。



66:Padukというゲーム。



67:こちらのカラー積木は、数独のように、それぞれのラインに同じフィギュアが重複しないように積木を並べていくという頭の体操として遊べます。



68:商品の外箱には、当時の工房名が記されています。



69:デザイナーとしてお二人の名前も記されています。



70:工房を去ろうとした時、にわか西日が差し込んで、お人形がお別れのいいお顔を見せてくれました。



71:交通安全のお守りとして、助手席の前にはガーディアンエンジェルが。



おまけ

文中に出てきた、ナナさん達お料理仲間「作る会、食べる会」の招待状やお品書きの一部をご紹介します。

彼らの会がお家で催されるたびに、ベーターさんが招待状やお品書きをイラストで作ってこられました。それが16年という歳月のうちに、一冊の本にできるほどの数になりました。あまりにもユーモラスで楽しいので、いくつかみなさんにご紹介します。いつも、控えめなベーターさんですが、こうして彼のイラストを見ると、やっぱりNannchenドールのお父さんだな…ってことが、改めて実感できるので、皆様にもお伝えしたいと思いました。



「ねえ、もう一度キスして。」って、梨が嘔きました。「おい御用！」とショウジョウバエ。「あとで友達もいっぱい連れてきてやるぜ！」



カボチャが一心不乱にお料理中。でもキュウリは、料理よりも彼女の曲線が気になって仕方ありません。



タマネギとダンスするたびに、思いがけぬ大きな悲しみに襲われるバナナです。



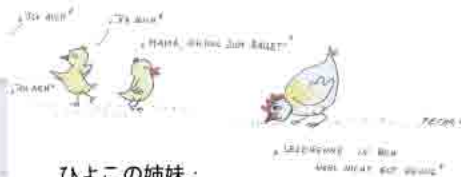
ねぎ：私をあなたのものにしてちょうだい。その鋭い刃で。ハートを切り裂くがいいわ。意地悪なあなた。そんなあなたを、かつて私は、ヒーローのように愛したの。剣ちゃん、その両刃で、私をずたずたにしておしまいなさい。

包丁：近頃、仕事やりにくくなる一方だぜ。

ヨーロッパから韓国に、親戚を訪ねてやってきた電気炊飯器。

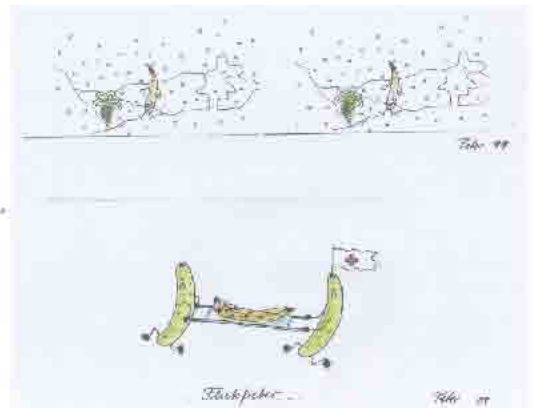


友を訪ねども遅かりし。



ひよこの姉妹：「ママ、私バレリーナになりたい。」「私も！」「私も！」「私も！」

母：「あんたたち、将来採卵用のニワトリじゃ、飽き足らないって言うのね。」



担架で運ばれているのは…発疹チフスのバナナ。